
一本捕れば、

さなおえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一本捕れば、

【Nコード】

N1887K

【作者名】

さなおえ

【あらすじ】

剣道のはなし。
ただそれだけ

「 始め 「 の合図で、動く . . .

「 止め 「 の合図で、止まる . . .

恋愛も、 剣道と同じように

誰かからの合図で 限られているのかな . . . ?

誰の目を気にせずに、

自由に愛していいのかな . . . ?

好きなんだから、好きって伝えていいですよね？

どうすればいい？

愛するだけでいい？

思うだけじゃ満足？

好きだけじゃ、いいのかな？

違うよ、

愛を感じたい

でももうできないよ・・・

思えば想うほど苦しくなってしまう

思い出したくないのに、

私が私を迷わせる・・・

/
一本捕れば、

1・とらじま

あたしのセイか、．．．
あたしがやったんだ、

あたしのせいだ、こんなことになった

謝るだけじゃ済まされない

．．．．．「ごめんね」しかいえないよ．．．

夏休み

私は、その頃4年生だった、

保育園から、やっていた剣道に熱中している時期だった。

自分で言うのはあれだけど全国大会には毎年出場する実力で、

かなりのの、有名人だったっけ。

「叶絵 - つ！ - ！、おはよっ！ - ！」

剣道場に向かう途中、後ろから飛び込んできたのは

同じ剣道部の、 亜矢 だった。

「あ、 亜矢 - ！おはよ、 今日早いね」

「うん、 . . . 昨日寝坊して監督にもものすごく怒られたからw」

「さすが、 亜矢w」

亜矢は、1年生のときこの剣道場にやってきて、
すぐに仲良くなった。

同い年で、学校は違うけど、剣道部では一番の仲良し、

「ってか、昨日やりすぎて、筋肉痛う 今日たぶん死
ぬわ」

亜矢が、うずくまった。

「はー、亜矢。いつも練習おわったら必ず
ストレッチしれっていつてるでしょーが!!、
なんでしないんだ
よ、

だから筋肉痛なんかになるでしょ、」

「えーっ、だって、忘れちゃうんだもん・」

亜矢はちよつと抜けてる。いや、抜けすぎww

「こんにちはーっ」

暑苦しい道場についた。

もう、部員は集まっていた。

「おい、お前ら遅いぞ。」

私たちの前に現れたのは、監督だった。
坊主で太っているので、デバゲと読んでいる。

「さー、始めるぞ、みんな剣を持って」

素振り100回・・・、

疲れるわ・・・

「やめー！ーっ、早いけど、面をつけよう」

いつの間にか、素振りは終わっていた。

面つけんの、やだー、

汗臭いし、暑いし、やだわあー・・・

まあ、いいか

「叶絵っ、何ポーっとしてんの！、早くつけないとっ！」

亜矢が、付け終わって、私を叩いた。

「わーってる、つけますつけます」

もー、 書いて書いて

1 とらづま

「ペアーつくって、すぐに……！」

監督が、迫力のある声を出した。

びびった。

てきとーにペアをつくったら、

相手は、この道場で、一番強い奴だった。

あたしの、ライバル。

一緒に、保育園の時入った奴。

幼なじみで、憎たらしいやつ……！！

「おー、 叶絵か、w 俺に一生勝てないやつとかーw」

「うっさい、はげ！……！ 全国1位だからって、いばんなよ、」

もー、むかつくむかつく、

今日、最初の試合が、こいつ、聖弥だなんて、

いや、丁度いいしw、めっためたにしてやらあー！

「さー、ペアできたか？、じゃあはじめるぞ」「ん」

始めっ！……！……！

バチンッッッッッッッ！……！……！……！、

「メーーーーーン!!!!」

やった!、さっそく一本とったWWW!!

ボタン。

「え?、」

目の前には、倒れた聖弥がいた。

「え、？ 何？ は？」

何が起きたの？、

は？、 意味わからない

なんで倒れてるわけ？

「 やめー！ーっ！！

どうした、 聖弥？！、 「

監督が、止めの合図をした。

そしたら、みんな一気に私のところに集まってきた。

「何？、どうしたの？」

知らないよ。 . . . 聖弥が勝ってに . . .

「叶絵。お前、何かしたのか？、 「

「し、してませんよ、ただ、一本とっただけです」

急いだ、監督は、すぐに聖弥の防具をはずし、

救急車を呼んだ。

「何で？そ、そんなに大げさなんですか？？」

私は監督に問い掛けた

「分からんが、今は救急車だ！」

聖弥は、 剣道 がもうできないらしい。

今は、同じ中学にいるけど、

それっきり 話しをしていない。

頭につよくダメージを受けたらしい。

あたしの、力で

今年の全国大会、楽しみにしてたのにね、

なんて、ことしたんだろ

でも、 私はただ、一本とっただけ・・・

それだけに・・・？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1887k/>

一本捕れば、

2011年1月15日23時17分発行